

「日々の理科」(第 2997 号) 2022, 10, 21

「秋の東北鉄道旅行(4)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

「開運橋」は盛岡市のシンボリックな存在だ。盛岡駅から徒歩数分の位置にあり、初めて盛岡を訪れた人でも、まず迷うことはない。今回は夜だったし、翌朝も天気があまりよくなさそうだったので、盛岡の友人が前日の朝に写真を撮っておいてくれた。



開運橋からは、北上川越しに「岩手山」がよく見える。岩手山は「岩手富士」とも呼ばれるが、盛岡市内から見た岩手山は、左右の傾斜が均等ではなく、「富士」らしくは見えない。しかしどこか浅間山にも似た山容で、いつ見ても美しいと思う。



私はこのあたりから見た岩手山を、過去に何度も画にしている。この画のような「新緑の北上川畔と残雪の岩手山」が一番美しいと思う。四季で姿を変える岩手山を、毎日のように眺めながら生活している盛岡市民が、実にうらやましいと思った。



友人が案内してくれたのは、開運橋にほど近い、洋風の居酒屋さんだ。メニューは個性的で、開放的な雰囲気も良い。特にお刺身がおいしかった。



お刺身がおいしいのは、オーナーさんが現役の漁師さんだからだ。実に明るく気さくな形で、帰る時はお店の玄関まで見送りまでしてくれた。



その後、北上川を上流側に歩き、河畔の飲食店街を散策した。夜10時を過ぎていたが、まだ開いているお店が何軒もあり、テラスで談笑している人も多かった。とても楽しそうな雰囲気だったので、次回盛岡を訪ねたら、ここに寄ってみたいと思った。